



能楽体験 児童真剣に

広島 発声法や基本動作学ぶ

福山市在住の能楽師大島衣恵さん（三〇）紀恵さん（二四）の姉妹を招き、小学生が能を学ぶ「こども能楽ワークショップ」が十九日、広島市南区宇品御幸の宇品公民館であった。広島市内の高齢者たちの生きがい探しグループ「たつじんくらぶ」が、

伝統芸能に触れてもらうと企画した。

宇品小の児童やその保護者たち四十八人が参加した。衣恵さんの「能は中世のミュージカル。気軽に楽しんで」との呼び掛けで、謡の発声法や舞の基本動作「すり足」の指導を受けた。笛や太鼓、

鼓の演奏にも挑戦。児童たちは、初めての動作や演奏に悪戦苦闘しながらも、真剣な表情で教わっていた。同小二年大谷珠世さん（六）は「南区宇品御幸は先生の謡がすこく迫力があつた。かっこいい」と能の世界に感激していた。